

相先生を偲んで

相利民さん、私が九州大学在職中に、あなたから最初の手紙を受け取ったのは 1991 年末のことでした。手紙には自己紹介と、私のもとで学位を取得する助けをしてほしいとありました。英語で書かれていました。相利民さんは 1982 年に南京大学計算機科学科を卒業し、直ちに四川大学計算機科学科の助手になり 1991 年当時は計算機科学科の講師をしていました。

その後、1994 年 10 月に中国政府派遣訪問研究員として来日することができました。入学試験を受けて 1996 年 4 月から博士後期課程の学生になりました。そして 1998 年 12 月「A Powerful Model BSR+ of Parallel Computation: Its Efficient Implementation and Applications」と題する学位論文を提出し 1999 年 3 月に九州大学から博士（情報科学）の学位を見事に取得されました。学位論文の内容は、BSR+という強力な並列計算のモデルの提出とそれを用いた効率的な計算手法を編み出すことです。Akl さんというカナダの学者グループと交流してまとめ上げたものです。

論文の内容もさることながらこの論文は奥様と息子さんとお嬢さんに捧げられています。謝辞の最後に次の言葉があります

Finally, I wish to thank my wife, Xin YI, for her unfailing support and love, without which it would be a dream to complete this work. Thanks also to my handsome son and lovely daughter for their childish words and smiles. (翻訳：最後に、妻イ・シンに感謝の意を表したい。彼女の尽きることのない支えと愛がなければ、この仕事を完成させることは夢に終わったでしょう。ハンサムな息子と愛くるしい娘にも感謝します。子供らしい言葉遣いと笑顔に。)家族を大切に作る心が伝わってきます。ここで言及されているお嬢さんも一昨日に 11 才の誕生日を迎え病室で家族でお祝いしたと聞きました。当時はまだ赤ちゃんだったんですね。

学位取得後九州大学で博士研究員を務めていました。ちょうどその頃に九州産業大学から情報系の学部を作るので協力してほしいという話が私宛にありました。相利民さんにも参加してもらえないかと私から打診したところ会津大学の友達から会津大学に応募してみないかという話があるということでした



が、自分は福岡が好きだ。福岡で働けるならといって私の勤めに応じてくれました。

情報科学部の発足は 2002 年 4 月です。その 1 年前に情報科学部設置準備室を学内に作り相利民さんに九州産業大学助教授、副室長として開設の準備に当たってもらうことにしました。準備期間中に行った仕事はたくさんありますが、開設後ただちに必要になる担当科目のテキストづくりは大きな仕事だったと思います。相利民さんの担当は離散数学です。4 つのクラスを私と 2 人で 2 クラスずつ担当することにしていました。この自前のテキストは学部開設後 3 年間使った後に 2006 年にコロナ社から出版いたしました。出版に際して、全体の編集を私が担当し、本文の大部分を相利民さんが、そして離散数学の上級コースを担当する朝廣先生が主として練習問題の解答を分担したものです。幸いこの教科書は 2007 年、2008 年、2009 年と毎年新学期に増し刷りを重ねております。

相利民さんは非常に計画性に富んでいます。学生の指導も大雑把ではなく綿密な計画を立てそれに従って行きます。2007 年 2 月には相先生が卒業研究を指導した学生が学部長優秀賞を獲得しました。学部長優秀賞を授与されるのは毎年 4 人までとなっています。2007 年 4 月には教授に昇格しこれからというときに発病してしまいました。私も学部長として相利民さんにはいろいろ働いてもらいたいと思っている矢先でした。1 年半にわたる闘病の後に見事に回復して 2008 年 12 月半ばに復帰を果たしました。それから 2 ヶ月の間に 2 編の論文を書き上げ国際ジャーナルに投稿しました。また、離散数学の教科書の増し刷りのために手直しの作業もいたしました。

しかし、2月に再発したのです。本当に残念無念を訴えていました。私たちにとっても残念でたまりません。

相さん、もう病と闘うことはありません。どうか安らかにお休みください。そしてご家族の上に平安がありますように祈っています。

九州産業大学情報科学部（前）学部長・牛島和夫

私は相先生と付き合い始めたのは平成15年4月に九産大に着任してからのことでした。福岡に友達があまりいない私に、近くのスーパーの情報から、貸家の情報まで熱心に提供してくれたり、友達を紹介してくれたり、いろいろお世話になりました。研究室も隣り合うし、同じ南京大学卒業の先輩でもあり、教育、研究両面において互いに切磋琢磨し充実した日々を送ることができました。また、週末や休日と一緒にトランプ遊びをしたり、料理を作ったり、楽しい時間を過ごしました。

相先生と付き合いしていくうちに一番感心したのは、その堅忍不拔の精神と闊達な気性でした。留学生時代、相先生はレストランなどでアルバイトをして一家の生活費や授業料をまかないながら、素晴らしい研究成果を数多く挙げられたと聞いています。2年ほど前に突然ガンになって1年以上の治療が必要かもしれないと言われたとき、自分のことではなく、授業のことや友達の約束ばかり考えていました。2年間の闘病生活の中で、数十回の化学療法をうけて体がどんなに弱くなっても、見舞いに行く私たちの前に、いつも笑顔を見せて、落ち込む姿は一度も見せませんでした。

今年2月に再発と診断され再度入院しました。そのとき、もう残る時間はそれほど長くないと認識したとしても、「このまま人生を終えるわけにはいかない。最後まで頑張ればまた奇跡が起きるかもしれない」と信じて、論文を2編書き上げて投稿することができました。特に、グラフ理論の世界的有名な難問である「四色問題」にチャレンジし、独自の証明方法を考案することができました。誠に残念なことに、相先生はその審査結果を待つことができませんでした。

私は、今でも相先生がお亡くなりになられたことは事実と認めたくありません。5月20日頃、ちょうど最初の入院から2年間になったとき、突然悪化し危篤状態に陥り、医者が至急ご親族を呼び寄せようと言われました。一番かわいがっている娘さんは1ヶ月後に11歳の誕生日なので、ぜひ誕生パーティで娘を祝福できるように頑張ろうと周りで励ましてあげた際に、いつも「はい、頑張ります！」と言って、最後まで頑張っていました。そして、6月19日に娘の誕生パーティで「Happy Birthday」をお祝いした後、翌日朝日が出る前に、息を引き止められました。46歳でした。

46年の人生は短すぎます！もっと長く生きていただいて、愛するご家族を支えていけばいいのに。もっと長く生きていただいて、周りに勇気と力をかしていただきたいのに、誠に残念でした。

九州産業大学情報科学部教授 成凱